相鉄100年と旭区

相鉄100周年、新たな出発

～ 相鉄と旭区の100年の軌跡、都心直通プロジェクト ～

1. 相鉄グループ創立100周年

相鉄グループは平成29年（2017）12月18日、グループ創立100周年を迎えた。
相鉄グループは、大正6年（1917）の創立以来、鉄道業と横浜駅周辺および沿線地域の積極的な開発、そしてその地域での快適な暮らしをサポートする商品・サービスの提供を通じて業容を拡大し、近年では沿線外への積極的な事業展開にも取り組み、今日まで発展を遂げてきた。

神奈川県央部の旅客輸送と相模川の砂利の運搬から始まり、希望が丘や海老名をはじめとする沿線宅地開発、横浜駅前の用地取得と商業開発、いずみ野線開業と緑園都市等の開発、横浜駅西口再開発、選択と集中の推進、持株会社体制への移行、宿泊特化型ホテル事業の拡大、海外への事業展開など、常に変化を続けながら今日まで成長してきた。

相鉄グループは、令和元年（2019）11月30日に鉄道の東京都心相互直通運転（相直）を開始する。相直開始を契機として、沿線の利便性、快適性の更なる向上にグループを挙げて取り組み、沿線価値を高め、ひとりでも多くの生活者を相鉄線沿線に呼び込むことを目指す。

都心直通運転用車両
相鉄12000系
（提供／相鉄グループ）

2. 相鉄と旭区の100年

（1）万騎が原地区の開発

当社が買収を進めていた横浜市保土ケ谷区（現旭区）二俣川町万騎が原周辺の事業用地は昭和32年ころには約50万㎡におよんだ。

用地買収に当たっては、多数の地主との煩雑な交渉を避け、能率的に進捗させるため、地主側が組織した委員会を窓口に交渉を一本化した。この結果、地主側でも公平な話し合いができると好評であり、効果をあげることができた。

昭和32年（1957）、当初は神奈川県に働きかけ、この地を共同で開発することになり（開発面積85万㎡）、同年8月には両者で公庫建売住宅の建設に着手した。万騎が原団地は当社が最初に手がけたマンモス団地で、用地の26％を道路網にとったゆとりのある団地構成であった。また、土地分譲は行われず全区画を建売住宅としたため、整然とした街づくりが実現した。

このように、当社の土地、建物の分譲が活発化するにしたがって、仲介、斡旋の依頼が次第に増えてきたが、横浜駅東口の本社での営業体制だけでは対応できなくなってきた。このため、横浜駅西口に、昭和32年（1957）12月不動産営業所を設置して、土地、建物の分譲業務を行うと同時に仲介業も兼ね、サービスの向上と営業収入の増加を図った。

こうして昭和33年（1958）3月14日、第1次として59戸を分譲した。

二俣川駅までの道路を建設中の万騎が原団地（昭和30年代）
（提供／相鉄グループ）

万騎が原団地で採用したプレハブ住宅
（提供／相鉄グループ）

（2）二俣川「こども自然公園」への土地提供

横浜市は、保土ケ谷区（現旭区）大池町にある大池を中心に青少年向けの大自然公園をつくる計画を進めていたが、その中心部には当社が分譲用地として約22万㎡の土地を所有していた。当社はこの横浜市の計画に賛同して、土地を無償で提供することを決め、昭和43年（1968）11月1日横浜市に寄付した。横浜市ではその後同地周辺を含めて整備を行い、昭和47年（1972）6月5日、総面積46万㎡の二俣川「こども自然公園」を開園した。

昭和38年（1963）オープンした相鉄ストア三ツ境店
（提供／相鉄グループ）

昭和43年（1968）オープンした相鉄家具センター
（提供／相鉄グループ）

（3）相鉄三ツ境ビル完成（そうてつローゼン1号店の開店）

当社線の沿線開発が進み、沿線に住宅地が増加するにしたがって、沿線住民の日常的なショッピングの便宜を図るため、ショッピング施設の建設が必要となった。昭和38年（1963）11月26日に三ツ境駅前に相鉄三ツ境ビル（平屋一部2階建て、延床面積948㎡）が完成し、グループ第1号のスーパーマーケットである相鉄ストア三ツ境店が開業すると同時に、京浜興業㈱（昭和47年7月1日、相鉄建設㈱に吸収合併）が同ビル内に三ツ境家具センターを出店し、家具の販売を開始した。家具の販売は順調な伸びを示し、同店の店舗面積は狭隘を告げるようになった。このため、当社は同ビルに隣接して平家建て297㎡の相鉄三ツ境ビル別館を建設することにし、昭和43年（1968）5月31日完成、翌6月1日には家具センターが三ツ境ビルから移転し開業した。

昭和45年（1970）オープンした二俣川グリーングリーン
（提供／相鉄グループ）

（4）二俣川グリーングリーン完成

万騎が原団地をはじめとして、当社が長年にわたって開発を続けてきた二俣川駅周辺一帯は、左近山団地なども加わって、県下の一大ベッドタウンとしての発展を続けた。このため、二俣川駅を中心に駅前広場を整備して、地域の生活機能を満たすショッピングセンターを建設することになった。

昭和54年（1979）リニューアルオープンした
二俣川グリーングリーン
（提供／相鉄グループ）

3. 未来への取り組み

（1）二俣川駅南口地区第一種市街地再開発事業

平成30年（2018）4月27日、二俣川駅（横浜市旭区）に相鉄グループの新しい商業施設「ジョイナステラス二俣川」が開業した。2棟からなる「ジョイナステラス」の店舗数は開業時点で約90店と、横浜市西部エリアでは最大規模だ。今回の「ジョイナステラス二俣川」開業にあたっては2つの事業が行われた。1つは二俣川駅の駅舎増築、もう1つは南口の再開発事業で、駅舎増築で造られた商業フロアが「ジョイナステラス2」、南口再開発事業で造られた複合施設の商業棟が「ジョイナステラス1」だ。南口の再開発事業は、老朽化していた相鉄の商業施設「グリーングリーン」の建てかえや手狭な交通広場の拡幅、そして周辺の低利用地の高度利用を目的として平成24年（2012）から始まった。「グリーングリーン」は平成26年（2014）に閉店・解体の上、整地などを行い、住宅棟・交通広場棟・商業棟・業務棟・駐車場棟からなる複合施設「コプレ二俣川」が建設された。

ジョイナステラス二俣川（二俣川駅南口）
（提供／相鉄グループ）

二俣川駅北口
（提供／相鉄グループ）

（2）都心直通プロジェクト

相鉄・JR直通線は延長約2.7kmで、西谷駅で相鉄本線から分岐したのち地下線経由で横浜羽沢駅（貨物駅）に達し、その構内でJR東海道貨物線に合流する。横浜羽沢駅と隣接する地下に新駅が建設されており、平成29年（2017）12月に「羽沢横浜国大」と駅名が決定した。整備主体は鉄道・運輸機構で、営業主体は相模鉄道となる。一方、相鉄・東急直通線は新駅「羽沢横浜国大」で分岐して日吉まで約10.0kmの地下線で、途中に新横浜（仮称）、新綱島（仮称）の2駅を設置、相鉄・東急ともに東海道新幹線にもアクセスする。整備主体は鉄道・運輸機構、営業主体は相鉄と東急の2社となる。

これにより、相鉄線二俣川・海老名や湘南台方面から新宿・渋谷・目黒方面との間で相互直通運転を行い、横浜市西部や神奈川県央部と東京都心の間の速達性向上や、広域鉄道ネットワークの形成と機能の高度化が期待される。

（相鉄ホールディングス株式会社　山城　英哲）

グレーシアタワー二俣川
（提供／相鉄グループ）

相鉄線 今昔

鶴ケ峰駅

平成19年（2007）鶴ケ峰駅南口地区第一種市街地再開発事業「ココロット鶴ヶ峰」オープン
（提供／相鉄グループ）

昭和37年（1962）ごろ
（提供／相鉄グループ）

現在（令和元年）

二俣川駅

二俣川駅南口地区第一種市街地再開発事業（平成30年（2018）3月撮影）
（提供／二俣川駅南口地区市街地再開発組合）

1980年代の二俣川駅
周辺の様子
（提供／相鉄グループ）

希望ケ丘駅

現在（令和元年）

昭和41年（1966）
（提供／相鉄グループ）

平成元年（1989）

南万騎が原駅

現在（令和元年）

初代南万騎が原駅（昭和51年（1976））
（提供／相鉄グループ）

まきが原相鉄ライフのオープン
（昭和55年（1980））
（提供／相鉄グループ）